

金沢大学考古学研究室草創のころ

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上野, 佳也 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/7582

金沢大学考古学研究室草創のころ

大正大学教授

上野佳也

1974年、金沢大学法文学部に考古学講座が設置され、同年7月1日、私は教授として着任した。7月3日、佐口透教授に案内されて史学科の会議で紹介された。10日、初めて教授会に出席した。この日は大雨であったことを記憶している。

10月9日に、この新設の考古学専攻に進学希望の2年生、石原俊樹君、高橋明子さん、辻佐和子さんが教官室に尋ねてきた。その後、私の教官室の隣の故井上鋭夫教授の部屋に仮研究室として横書きの小さな「考古学研究室」の札を書いてかかげた。これが金沢大学考古学研究室の開設の歴史的瞬間と、その時私は感じた。同月22日に考古学概説の講義を始め、24日に、仮の考古学研究室の掃除をして、進学が決まった先の3君と共に紅茶とお菓子で発足を祝った。これで教官と専攻学生が揃った。

それから重要な仕事として、図書、実習器材を整えねばならなかった。まず基本的図書として『考古学雑誌』のバックナンバーであるが、この雑誌はちょうどこのころ、古書店から姿を消してしまったので当初は手に入らなかった。その他は『人類学先史学講座』（雄山閣）、『旧版考古学講座』（雄山閣）等から一応揃えることができた。後日『考古学雑誌』を半分手に入れることができ、さらに幸せなことに、『考古学講座』の先行段階の貴重な『考古学会雑誌』、『考古』、『考古界』一揃いを、私の東大時代の恩師で

当時大正大学教授であった斉藤忠先生から寄贈していただいた。この3誌が揃ったことは望外の喜びであった。また、八幡一郎先生からいただいた本もある。その他の報告書は取りあえず私のものを置いた。

やがて考古学研究室と実習室ができた。土器洗い場も設計して作ってもらった。また考古学研究室に購入した図書をおいたが、最初は壁際だけであったような気がする。実習器材としてはカメラ、測量器具などを購入した。

あれからまもなく22年になる。メモをたどりながら誌してきたが、間違いがあれば後日訂正したい。それから毎年、ぞくぞくと若い学生が進学してくれてきた。そして1976年、若き日の佐々木達夫先生が専任講師として颯爽と着任した。

今日の金沢大学考古学研究室の発展は、私が去った後の教官、学生諸君の尽力のおかげと敬意を表し、今後のいっそうの発展と活躍を祈りたい。